

令和5年度

事業計画書

公益財団法人 帆船日本丸記念財団

目 次

1	事業運営の方針	4
2	帆船日本丸事業	5
3	横浜みなと博物館事業	6
4	みなとの賑わい創出事業	9
5	緑地管理及び研修施設事業	11
6	集客増に向けた主な重点取組	12
7	組織運営の質的向上に向けた取組	15
8	令和5年度（2023年度）事業一覧表	16
9	管理執行体制	22
10	指定管理業務計画	24
11	指定管理業務に係る当該年度の収支計画表	27
12	年間の指定管理業務の範囲外の収支計画表	28

令和5年度 事業計画

令和5年度（2023年度）は、日本丸メモリアルパークの第4期指定管理を受託した2年目となります。初年度の令和4年度（2022年度）は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、横浜みなと博物館のリニューアルオープン、観覧料の改定などにより、来場者数、事業収入ともに、感染前の状況に近づけることができました。

この流れを継続すべく、当財団が30年以上に渡り培ってきたノウハウ、実績及び信頼をもとに、来場者が安全に安心して利用できる管理運営を行います。パーク全体の満足度を高めるとともに、地域の賑わいの中心的存在になるための戦略を横浜市と協議しながら、積極的に策定・実施していきます。

帆船日本丸は、平成29年（2017年）9月15日に国の重要文化財に指定され、令和2年（2020年）10月21日には、第13回海洋立国推進功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。引き続き、横浜市と協力して文化財の価値を保全しつつ、令和5年（2023年）の秋ごろに400回目を迎える総帆展帆や海洋教室など、帆船日本丸を活用した事業を積極的に推進します。

一方で、昭和5年（1930年）建造の帆船日本丸は船齢93年を迎え、船体の劣化が進んでいます。このため、来る「100年への航海」に向けて、平成31年（2019年）3月に作成された重要文化財「帆船日本丸保存活用計画」（以下「保存活用計画」という。）に基づき、横浜市と協力し、保存・活用を行います。

横浜みなと博物館は、令和4年度（2022年度）に新しくなった展示や施設を、引き続き多くの入館者が安全に楽しく利用できるよう取り組みます。

企画展では、横浜港にも大きな影響のあった、9月1日の関東大震災から100年に合わせて、「関東大震災100年 船と港から見た関東大震災」を実施します。

さらに、ワークショップ、企画展関連事業の街歩きやクイズラリーなど入館者が横浜港をはじめ、海と港と船に親しむ多彩な機会を提供します。SNS等を活用した広報活動を行い、新しいファンの獲得を目指します。

その他の施設活用としては、アリーナでのイベントをはじめ、横浜市等と連携したイベントなどを開催するとともに誘致を進めます。また、プレゼンテーションルームなどでの国際会議のユニークベニューやレセプションの誘致に努めます。

以上、日本丸メモリアルパークを国指定重要文化財の旧横浜船渠第1号ドックと帆船日本丸を活かした歴史遺産の大切さを体感する場とします。さらに、博物館機能を活かし、海と港と船に親しみながら豊かな体験ができる、満足度の高い教育普及施設を目指します。これにより、みなとみらい21地区において、地域の賑わい創出と横浜観光の振興に貢献し、憩いの場として親しめる快適な環境を提供します。

1 事業運営の方針

(1) 年次計画の目標

日本丸メモリアルパークの来場者数75万人、帆船日本丸及び横浜みなと博物館有料入場者数12.4万人、総帆展帆実施回数14回、教育普及各種講座の実施回数200回以上とします。お客様満足度は、97%以上を目指します。

(2) 利用者の拡大と一層のサービスの向上

来場者に気持ち良く利用していただくために、おもてなしの心で常に改善を行い、サービスの向上に取り組みます。来場者ニーズを的確に把握した取組を展開するとともに、入場者の増加が期待される外国からのお客様に対応したサービスを提供します。

施設運営での大きな特徴である「私たちの大切なパートナー」の市民ボランティアとの協力体制を引き続き充実させます。

スマートフォンやパソコンの普及に応え、WebサイトだけでなくSNSを利用し、タイムリーでビジュアルな発信を行います。

(3) 安全・安心して利用できる施設管理

常時パーク内を巡回し、子どもや高齢者、障がい者が安心して利用できる施設管理を行います。新型コロナウイルスなどの感染症に対しては、国や県・市の動向を踏まえ適切な対策を講じます。

地震や津波、風水害等の発生時には、お客様の安全を第一にした避難誘導を行うなど必要な措置を迅速に講じるとともに、所蔵品の持ち出しルールに則り、職員が協力して貴重な資料の保全に努めます。また、消防計画や地震対策マニュアルなどを定期的に見直し、消防署等の指導による訓練を毎年実施します。

(4) 柔軟な利用料金体系の設定

帆船日本丸、横浜みなと博物館それぞれの入場料設定だけでなく、両施設を1日楽しんでいただける割安な料金（共通券）の設定を継続します。

小学生から高校生までは、同じ料金帯の設定とするとともに、毎週土曜日を100円の特別料金とします。65歳以上の方の入館料は、シニア割引を設定します。

団体割引やWebサイトからの電子チケット割引など多様なニーズに応える料金設定を実施します。

2 帆船日本丸事業

令和5年度（2023年度）は、帆船日本丸が横浜に誘致され、昭和60年（1985年）4月28日に第1回の総帆展帆を実施して以来、多くのボランティアに支えられながら400回目の総帆展帆を迎える節目の年となります。

帆船日本丸がこれまでどおり総帆展帆などの事業を安全に実施し続けるためには、経年劣化が著しい木製ヤードや木甲板をはじめ要修繕・整備箇所を早期に改善することが重要です。令和4年度（2022年度）には、クラウドファンディングによる寄附を一部充当し、木製ヤード2本の交換を行いました。今後も帆船の船員経験のある職員が日々の船体整備に努めるとともに、引き続き保存活用計画に基づき、保存において行うべき工事や修繕の方法について検討し、実施していきます。

また、帆船日本丸は、海洋教室等を通じて、海・船・港に関する知識を学ぶための教育施設でもあることから、子どもから大人まで楽しめる参加・体験型教育プログラムをさらに充実させ、帆船日本丸の保存について、より理解を深めていただけるよう努めます。加えて、帆船日本丸をより多くの方に御覧いただくため、定期的な船内展示の更新、各種講座等を実施し、乗船者増に努めます。さらに、帆船日本丸を観光資源として活用する方策の運用を進めていきます。

(1) 保存事業

帆船日本丸を良好な状態で保存するために次の整備を行います。

ア 日常保守点検

公開区域をはじめとした船内の安全点検、清掃、真鍮磨きなど、美観保持等の整備に努めます。保存活用計画に基づいて、船体鋼材の発錆部整備、木甲板や船体木部の整備及びマスト、ヤード、その他の帆装艀装の点検・整備並びにセイルカバーの新規作製を行います。

イ 年次船体整備等

令和5年度（2023年度）は、5年に一度の定期検査となります。船舶検査受検工事に加え、船尾にあるフード側壁切替え及び同フード周り木甲板張替え工事を実施します。

また、船体構造部材、帆装艀装品及び船体木部に関する要修繕箇所を抽出し、修繕工事を行います。さらに、帆装艀装整備として交換済み木製ヤードの部分塗装やバックステイ等の静索を順次塗装します。



大舵輪を覆うフード(船尾)

ウ 災害防止

「帆船日本丸災害防止計画」に基づき、火災や地震等の災害対策及び不法侵入者の防止に備えた24時間体制の監視を、船内防災センターにおいて行います。

(2) 公開事業

例年の検査に比べ受検項目が多い定期検査ですが、船舶検査官と事前調整を図り、受検準備等を進めながら船内を年間 250 日以上一般公開します。

ロープ作成教室や各種講座を実施し、帆船日本丸のさらなる魅力アップに努めるとともに、リピーター及び新たな乗船者の増加を図ります。

展帆ボランティアに御協力いただき、総帆展帆を年14回実施します。新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、適宜、帆の一部を広げる展帆を実施します。さらに、現役時代の帆船日本丸への乗船経験や海上勤務経験があるガイドボランティアと連携し、状況に応じて団体客等を対象とした無料の船内ガイドサービスを実施し、乗船者の満足度向上に努めます。

これらをはじめ、祝日の満船飾や、毎夜ライトアップとイルミネーションの点灯を実施することにより、この地区を訪れる方々に、帆船日本丸の美しい姿を御覧いただき、みなとみらい21地区の賑わい創出に努めます。

(3) 青少年錬成事業等

帆船日本丸及び附属施設を活用して、青少年錬成のための「海洋教室」や「家族で体験できる海洋教室」、体験型の「船の講座」、夏季の「ロープ作成ミニ海洋教室」などを開催し、海事思想の普及に努めます。

また、35年以上に渡り実施してきた「よこはまこどもマリンスクール」の事業を引き続き支援します。



よこはまこどもマリンスクール開校式

3 横浜みなと博物館事業

横浜みなと博物館は、令和4年(2022年)6月にリニューアルオープンしました。新しく設置した展示は入館者に好評です。令和5年度(2023年度)は、リニューアルの効果をより一層活かし、ボランティア活動の再開とあわせて、多くの入館者に楽しく利用していただけるよう努めます。

3年ぶりに大規模な展示替えを実施した「柳原良平アートミュージアム」では、特集展示で柳原良平の多彩な作品の数々を紹介します。

令和5年(2023年)は関東大震災から100年となります。そこで、企画展「関東大震災100年 船と港から見た関東大震災」を開催します。横浜港の被害と復興、震災時に救援活動に従事した船舶の動向や、主要各港が関東大震災によってどのような影響を受けたかを紹介します。

さらに、ワークショップ、企画展関連の街歩きやクイズラリー、学芸員のワンポイント展示解説など、横浜港をはじめ海と港と船に親しむ多彩な機会を提供します。

各事業については、SNS等を活用した広報活動を行い、当館の魅力を発信し、これまで以上に多くの方に親しまれ、活用される博物館づくりと新しいファンの獲得を目指します。

博物館資料の保存については、昨今多発している水害等自然災害の対応を継続します。収蔵庫・書庫内の整理とあわせ、博物館で収集してきた資料をより良い状態で後世に残していく取り組みを進めます。また、令和4年（2022年）に行ったクラウドファンディングのご寄附を活用し、帆船日本丸無線日誌の修復等を実施します。

(1) 常設展示事業

令和5年度（2023年度）は、展示案内ボランティアによる活動を再開し、入館者の満足度向上とリピーターの確保に努めます。リニューアルした展示を問題に組み入れた博物館クイズラリーを継続し、展示内容についての理解を深めます。



展示案内ボランティアによる ご案内

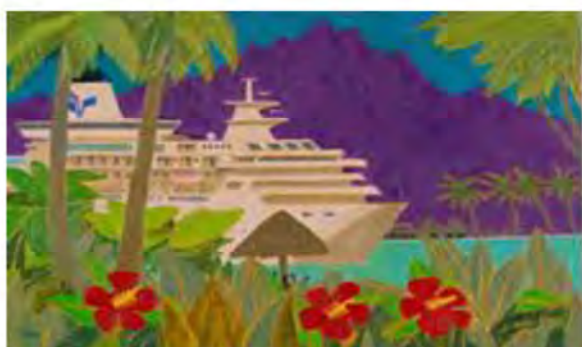


ガントリークレーンシミュレーター

新設された日本初の常設型VRシアターや、ガントリークレーンシミュレーター、操船シミュレーターなどの体感型展示機器について、いつでも良好な状態で利用できるよう努めます。

柳原良平アートミュージアム特集展示では、上半期は「花と木と船と」（仮称）と題し、船とともに花や木が描かれた作品を公開します。柳原は船の画家として知られていますが、花の絵を描くことも好きでした。色とりどりの花々と自然の造形の美しさが楽しめる作品の鑑賞を通じ、心穏やかな時間を提供します。

下半期は「街の中の Ryo. デザイン」（仮称）として、横浜を中心に、鉄道会社や食品会社、スーパーマーケット、港湾荷役会社、ラジオ局や郵便局などで使用された柳原の広告デザインの数々を紹介します。



特集展示「花と木と船と」(仮称)
「南洋」
平成13年(2001年) 油彩



特集展示「街の中の Ryo. デザイン」(仮称)
崎陽軒「みなと寿司弁当」パッケージ
平成10年(1998年)

柳原良平アートミュージアム特集展示名	会 期
花と木と船と（仮称）	4月25日～10月15日
街の中の Ryo. デザイン（仮称）	10月17日～令和6年（2024年）3月24日

(2) 特別展示事業

令和5年(2023年)は、大正12年(1923年)に発生し、横浜港にも大きな変化をもたらした関東大震災から100年の節目の年にあたります。これを機に横浜港の被害と復興、震災時に救援活動に従事した船舶の動向や、主要各港が関東大震災によってどのような影響を受けたかを紹介する企画展「関東大震災100年 船と港から見た関東大震災」を開催します。

本企画展では、過去の震災から何を学び、現在の港でどのような震災対策が取られているのか最新の情報を提供し、市民が防災について関心を深めることができる展示とします。企画展の関連事業として、NPO法人横浜シティガイド協会と連携した震災遺構をめぐる街歩き「なるほど!ミナト散歩」を、横浜市民防災センターと連携し、2館の展示から防災について学ぶクイズラリーを実施します。

その他、神奈川県博物館協会加盟館により関東大震災連携事業への参画や、震災100年を機に実施される各防災イベントと特に広報面で連携し、入館者増に努めます。



関東大震災で崩壊した横浜港と大さん橋に停泊する救援船

大正12(1923)年
『関東震災地写真帖』より 当館蔵



大阪港で救援物資を積込む特務艦室戸

大正12(1923)年
『関東震災画報第二輯』より 当館蔵

企画展名	会期
企画展「関東大震災100年 船と港から見た関東大震災」	8月26日～11月5日

(3) 教育普及事業

教育活動ボランティアの協力により、船の折り紙教室やペーパークラフト教室などのワークショップを3年ぶりに再開します。

企画展では、関東大震災の震災遺構を歩く「なるほど!ミナト散歩」や防災について学ぶクイズラリーを実施します。展示の内容についてより理解を深める展示解説を、会期中複数回実施します。



教育活動ボランティアによる船の折り紙教室

自宅にしながら、横浜港や帆船日本丸などの船に親しむことができるよう、「Webで日本丸ぬり絵(仮称)」等新たなWebサイトでのコンテンツの公開を進めます。



学芸員による展示解説

(4) 収集・保存等事業

ア 収集

博物館では、毎年多数の資料・図書を受け入れています。近年は市民から寄贈の申し出を多くいただくようになりました。収集した新収蔵資料を紹介する新着資料展示を年2回開催し、博物館の資料収集活動を紹介するとともに、資料収集協力の呼びかけを行います。

イ 保存

(ア) 博物館内およびバックヤードでは、夏季を中心に虫等の発生が見られるようになりました。入館者に良い見学環境を提供し、博物館資料を良好な状態で後世へ残すため、清掃作業や空気清浄機の適切な運用、温湿度データにもとづく資料の展示替えなど環境良化の取り組みを進めます。

(イ) 重要資料・図書等については、より高い場所への移動及び落下防止ベルトの取り付けなどを行い、災害に備えます。併せて、収蔵庫内の整理作業を進めます。

(ウ) 館内収蔵庫・書庫については、水害等自然災害に備えるため、令和2年(2020年)から継続している対策を継続します。

(エ) 令和4年度(2022年度)に横浜市が博物館の浸水対策として設置した、大黒ふ頭の収蔵施設に保管されている資料の管理を横浜市と協力して行います。

(オ) 令和4年(2022年)秋に実施したクラウドファンディング「帆船日本丸の航跡を末永く未来へ 船体維持修繕&無線日誌修復プロジェクト」では、多くのご支援を頂くことができました。収蔵庫内で保管している帆船日本丸の無線日誌4冊の修復作業及び全146冊を保管する中性紙箱の制作等を進めます。



館内収蔵庫
資料の落下防止策

4 みなとの賑わい創出事業

(1) 水辺の事業

ア シーカヤック体験教室

都心部では、希少な水辺を体感できる体験型アウトドアスポーツの魅力をWebサイトやSNSで発信し、引き続きファンの開拓を図ります。

令和5年度(2023年度)は、初心者向けの「半日スクール&赤レンガミニツアーリング」を123回、好評をいただいている「親子体験教室」を20回開催するとともに、参加者のツアーリング体験の写真を記念にプレゼントするなど満足度アップに努め、参加者を増やします。市内の大学との連携教室等も開催します。



シーカヤック体験教室(ツアーリング風景)

イ カヌーポロ教室



第9回帆船日本丸カヌーポロ大会

NPO法人横浜カヌー倶楽部・横浜市カヌー協会と連携し、4月から10月までカヌーポロ教室を子ども向けと大人向けに分けて計14回開催し、青少年育成とマリンスポーツの普及に協力します。6月には他県の競技団体も参加する第10回帆船日本丸カヌーポロ大会を開催します。

ウ 帆船日本丸のライトアップとイルミネーション

帆船日本丸では、毎夜ライトアップとイルミネーションを点灯し、パーク内を幻想的に演出します。



みなとみらいの全館点灯

エ その他

地元の警察署や消防署などが定期的に行っているパーク内水域での水難訓練にも協力します。

(2) パーク利用事業(イベント)

ワークショップやコンサートなど多彩なイベントへの貸出を引き続き積極的に進めます。大型イベントでは主催者が使いやすいように、アリーナ、訓練センター、プレゼンテーションルームの一体的貸出を進めます。

キッチンカーや飲食を主たる目的としたイベントなどの利用促進や、アリーナ、プレゼンテーションルーム及び特別展示室などを活用した国際会議のユニークベニューやレセプションの誘致に努めます。



アリーナでの「さかな文化祭」イベント風景

横浜市のプロモーション事業やみなとみらい21地区のイベントとの連携を図ります。

(3) ミュージアム・ショップ事業

帆船日本丸、横浜みなと博物館、柳原良平アートミュージアム及び横浜港にちなむ商品を取り揃え、来場者の思い出や学びをより深めるグッズの販売を行います。

当施設へ来られないお客様にも、商品をお買い求めいただけるようにオンラインショップを運営します。



ミュージアムショップ



5 緑地管理及び研修施設事業

(1) 緑地の維持管理・活用

ア 安全管理・美化

来場者の皆様に安全で快適な公園として利用できるよう、職員をはじめ警備員、中央監視員によるパーク内巡視を行います。高木の枝は定期的に剪定し、強風での落下を防止します。植え込み、芝生の刈込等により景観の維持とともに、憩える広場を提供します。



ワシントンヤシの剪定



博物館屋上の芝生広場

イ 撮影

テレビドラマやCM等の撮影の申込件数は、増加傾向にあることから、利用者のニーズに柔軟に対応することで、リピーター及び新規の利用促進を図ります。

夜景など撮影候補地の写真をWebサイトやSNSに掲載し、誘致を促進します。



テレビドラマの撮影風景

(2) 研修施設(訓練センター)等の管理運営

駅からのアクセスも良く、リーズナブルで使いやすいという利点を活かすと同時に、ニーズを事務改善につなげ、リピーターや新規利用者を増やします。

プレゼンテーションルーム及び特別展示室を多用途に貸し出すことで、一層の収入増に繋がります。特にプレゼンテーションルームは、映画やドラマの撮影の控室、みなとみらいで開催される各種イベントなどに利用できる施設として新しい利用者層の拡大を目指します。



プレゼンテーションルーム

また、施設予約のWebサイトを一層使いやすいように改善するとともに、プレゼンテーションルームについても予約対象に拡大します。

6 集客増に向けた主な重点取組

(1) マーケット別取組の強化

マーケット別取組を継続実施し、それぞれのマーケットからの需要創出・集客増を日指すとともに、リニューアルオープンした横浜みなと博物館、帆船日本丸はもとより、日本丸メモリアルパークブランドの普及に努めます。

そのために、各種プログラム・コンテンツの販売に向けた営業、効果的なプロモーションを実施し、マーケットのニーズに合わせたプログラム・コンテンツのブラッシュアップ・新規開発に取り組めます。

当施設単体だけでなく、近隣諸施設及び諸機関との連携や旅行会社をはじめとした各販売チャンネルとの連携を強化し、回遊性向上による誘致施策を図ります。

併せて、マーケット特性に応じた最適な情報発信を図るとともに、販路拡大のための営業を推進します。

さらに、地域の企業・団体等法人との協業による持続可能な新たな事業の構築を検討します。

ア 法人マーケット(教育旅行及び企業・団体等法人)への取組－団体需要創出

(ア) 教育旅行マーケット

- a 令和4年度(2022年度)にJTB横浜支店と共同開発した教育旅行団体向けプログラム「みなとの学校 In Yokohama」の販売を本格的に開始します。公益財団法人日本修学旅行協会(以下「日修協」)、公益財団法人横浜観光コンベンションビューロー(以下「YCBV」)等の関係機関及びJTBを主とした旅行会社の教育旅行部門との連携を強化し、販路拡大に努めるとともにブラッシュアップを図ります。

- b SDGsをテーマとした新規プログラム開発に取り組めます。



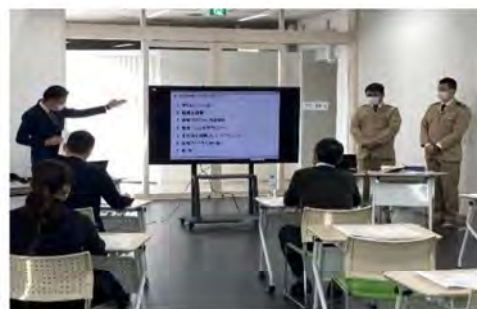
みなとの学校 In Yokohama(月刊教育旅行掲載)

c 日修教発行「月刊教育旅行」へ教育旅行団体誘致のための広告掲載等タイムリーな情報発信に取り組めます。

d 教育プログラムを集約した販売用ツールを制作し、旅行会社教育旅行部門への更なる営業展開に取り組めます。

(イ) 企業・団体等法人マーケット

a 令和4年度(2022年度)、(株)JTBコミュニケーションデザイン(以下「JCD」と共同開発した日本丸を利用した「リーダーシップ体験プログラム(企業・団体向け人財育成・教育プログラム)」の販売を本格的に開始します。横浜市内の業界団体・法人はもとより、旅行会社の法人旅行部門との連携を強化し、販路拡大に努めます。また、利用者ニーズに合わせて同プログラムのブラッシュアップを図ります。



リーダーシップ体験プログラム(体験会実施)

b 各種法人マーケット向け新規プログラムの開発に取り組めます。

c 団体誘致のため各種媒体への効果的情報発信に努めます。

イ MICEマーケットへの取組

令和4年度(2022年度)に制作したパーク内の各施設利用促進のための販売用営業ツールを活用し、アフターコンベンション、ユニークベニューを含むMICE誘致に向けた営業を本格的に開始します。

(ア) パシフィコ横浜、YCVBとの連携はもとより会議主催者及び旅行会社を含むMICEエージェント、国際等会議運営専門会社(以下「PCO」)及び企業等への営業を推進します。 ※PCO(Professional Congress Organizerの略)

(イ) 訴求効果を高めるため、販売用ツールをマーケットのニーズに合うようブラッシュアップし、効果的な情報発信を検討・実施するとともに販路拡大を図ります。

(ウ) 営業ツールを活用したMICE誘致の営業とともに、各関係機関及び近隣施設と連携し、MICE参加者用エクスカージョンコンテンツの開発を検討・実施します。

ウ 個人マーケットへの取組 - 個人・グループ需要創出

集客増のベースとなる個人需要拡大に向けて、お客様ニーズを的確にとらえ、販売チャンネル、各マーケット及びシーズンごとに最適な情報発信の選択と集中による効率的なプロモーションを実施し、誘客促進を図ります。

帆船日本丸・横浜みなと博物館を基点とし、各旅行会社向けに近隣施設と連携した個人向けコンテンツを開発・提供し、旅行商品化のための営業を推進します。

エ 外国人客（訪日・在日）マーケット ー 個人・グループ需要創出

(ア) 横浜みなと博物館リニューアル後の情報を掲載した英語版リーフレットを制作するとともに、多言語ツールの活用を本格的に再開します。



「QRTTranslatorカード」による多言語対応

- (イ) 新型コロナウイルス感染症の収束状況を見ながら、外国人来場者向けキャンペーン等のプロモーションを実施します。
- (ウ) 海外エージェント向けに E-ticket（キャッシュレス入館者）販売を本格的に開始します。
- (エ) YCVBを主として、近隣諸施設・諸機関との連携を強化し、インバウンド旅行会社等の情報収集・発信及び営業推進を図ります。

(2) 広報・宣伝への取組ープロモーションを主体とした取組

広報・宣伝・プロモーション全体の年間の取組みとして、WebサイトやSNSを活用した情報発信を更に推進して行きます。

また、従来の広報宣伝やプロモーション手法にとらわれず、日本丸メモリアルパークの基本情報の発信を継続します。

令和5年度（2023年度）は、重点的に博物館事業の柱の一つである企画展の効果的な広報・宣伝・プロモーション策を実施し、誘客促進を図ります。

併せて、新しく利用を開始するプレゼンテーションルーム（多目的ルーム）やタワー棟を含めた施設の効果的な広報・宣伝・プロモーションを実施し、利用促進を図ります。

(3) 地域連携による賑わいの創出

地域連携による誘客策や周遊施策と連動した施策を企画、実施します。

ア アート&ミュージアム構想への参画

一般社団法人横浜みなとみらい21（以下「YMM」）が主体で進めているアート&ミュージアムシティ構想に参画します。マップ制作や回遊のためのミュージアムパス導入開始等、近隣施設とともに当事業の具現化に向けた協業を推進します。

イ 近隣企業・法人連携

引き続き近隣ホテル・施設、大学、企業及び交通系各社と一層連携を強化し、回遊性向上のための協業を図り、具体的施策の実施を推進します。

ウ ロケツーリズムの取組

日本丸メモリアルパーク、近隣施設は、映画・ドラマ・CM等のロケ地として、年間を通して多く利用されています。

ロケ地をコンテンツとして活用した誘客・賑わい創出に向けて、近隣施設との連携も含めた取組みの検討を開始します。



地域連携「文化遺産めぐりマップ」

7 組織運営の質的向上に向けた取組

職員一人ひとりが誇りと自覚をもち、業務への使命感のもとに、“おもてなしの心”をもって来場者に接するよう取組むとともに、職員にとって働き甲斐のある職場づくりに努めます。

(1) 風通しの良い職場づくり

管理職会議、職員ミーティング及び安全衛生委員会など日常業務での議論を通し、職場でよく話し合う、風通しの良い職場運営を行います。

(2) 研修の実施

「コンプライアンス」や「個人情報保護」、「防災・緊急時対応」、「接客対応」、「スキル研修」等の研修を実施するとともに、横浜市が主催する人権研修等にも積極的に参加し、職員の意識や能力の向上を図ります。

(3) コンプライアンスの順守

研修や朝礼等によりコンプライアンス意識の向上を図ります。また、市職員を含めたコンプライアンス委員会の開催により、コンプライアンスの順守を徹底します。

(4) 人事考課の実施

上司との面談を通じ、職員一人ひとりと目標を確認し、行動計画を定めて実施する業務実績（MBO）と業務への取組姿勢等に関する勤務実績による評価を実施し、給料への反映や表彰制度などで職員のモチベーションアップ及びレベルアップを図ります。

8 令和5年度(2023年度)事業一覧表

(1) 帆船日本丸事業	
帆船日本丸公開	・次の日を除く毎日公開 月曜日(祝日にあたる時は公開、翌日が休館日) 年未年始(12月29日～1月3日) 年次検査工事期間(1月29日～2月26日)
展示案内	・ガイドボランティア等による船内ガイド(主に団体向け)を実施
総帆展帆 :実施予定回数 14回 *新型コロナウイルス感染症の状況によっては帆の一部展帆を実施	4月30日(日)、5月7日(日)・28日(日)、6月11日(日)、7月2日(日)・16日(日)、 8月27日(日)、9月10日(日)、23日(土・祝)、10月9日(月・祝)、15日(日)、22日(日)、 11月3日(金・祝)、19日(日) *展帆ボランティアの協力により実施
ミニ海洋教室 親子展帆/結索: 実施予定回数5回	5月3日(水・祝)・5月4日(木・祝)・5月5日(金・祝)、7月17日(月・祝)、10月22日(日) *親子での展帆体験と簡単なロープの結び方教室を実施
ロープ作成 :実施予定回数3回	7月28日(金)・29日(土)・30日(日) *船でロープを作成して、ロープの結び方を学ぶ
満船飾 :実施予定日数 16日	4月29日(土・祝)、5月3日(水・祝)・4日(木・祝)・5日(金・祝)、6月2日(金・開港記念日)、 7月17日(月・祝)、8月11日(金・祝)、9月15日(金・重要文化財指定記念日)・18日(月・祝)・ 23日(土・祝)、10月9日(月・祝)、11月3日(金・祝)・23日(木・祝)、1月8日(月・祝)・ 27日(土・進水記念日)、3月20日(水・祝)
海洋教室	・半日・1日コース(募集予定人数 200人) ・宿泊コース(募集予定人数 450人) *結索訓練、甲板磨き、登しよう訓練等を実施
教育普及事業	【大人向け船の講座】 ・11月12日(日)「重要文化財 帆船日本丸の大型舵輪を実際にまわしてみよう」 帆船日本丸の操舵システムについて解説、帆走時に使用する大型舵輪に触れ、実際に舵を動かす体験を実施 ・1月27日(土)「トールシップの帆装艤装④」 ロイヤルヤード(木製)の更新作業について解説 【子供向け船の講座】 ・7月30日(日)「帆船(はんせん)はどのように進むのだろうか？」 帆船が進む原理をわかりやすく解説船が進む原理を分かりやすく解説、工作によりミニ帆船を作成し、走らせます。 【夏休み親子宿泊海洋教室】 ・8月19日(土)・8月20日(日)

(2) 横浜みなと博物館事業

<p>常設展示事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次の日を除く毎日公開 月曜日(祝日にあたる時は公開、翌日が休館日) ・年末年始(12月29日～1月3日) ・収蔵庫・書庫燻蒸及び館内整備期間(1月29日～2月2日)
<p>展示案内</p>	<p>展示案内ボランティアによる常設展示の説明</p>
<p>特別展示事業</p>	<p>【企画展】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展「関東大震災 100 年 船と港から見た関東大震災」 会期:8月26日(土)～11月5日(日) 【柳原良平アートミュージアム特集展示】 ・「花と木と船と」(仮称) 会期:4月25日(火)～10月15日(日) ・「街の中の Ryo. デザイン」(仮称) 会期:10月17日(火)～令和6年3月24日(日) 【新着資料展示】 ・新しく収蔵した資料を公開します 会期:7月11日(火)～11月12日(日) 会期:11月14日(火)～令和6年3月24日(日)
<p>教育普及事業</p>	<p>教育活動ボランティアの協力を得ながら次の事業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館クイズラリー(ファミリー向け/年間) ・楽しい船の折り紙教室(こども向け/年間) ・サンデー・ペーパークラフト教室(ファミリー向け/年間) ・ホリデーペーパークラフト教室(ファミリー向け/年間) ・ホリデー船の折り紙教室(ファミリー向け/年間) ・学芸員のワンポイント展示解説(7、9、11、1、3月実施) ・Web で日本丸ぬり絵(仮称)(Web コンテンツ)など
<p>収集・保存等事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜港を中心とした資料調査・収集・研究・整理・保存 ・収集資料及び調査研究の成果を公開及び展示・教育活動に反映 ・収蔵資料のデータベース化推進 ・柳原良平作品の整理公開 ・帆船日本丸附資料の整理公開に向けた計画策定 ・博物館ニュース、企画展に合わせた目録等を出版・発行 ・資料貸出し・レファレンス等実施 ・画像有料貸し出し ・博物館内収蔵庫の環境整備及び災害対策 ・博物館外収蔵庫の管理運営について、横浜市と協力して実施 ・クラウドファンディングのご支援による帆船日本丸無線日誌修復事業等

ライブラリー事業	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜港を中心とした図書資料の調査・収集・整理・保存ならびに公開 ・図書資料のデータベース化推進 ・ライブラリー運営・環境整備実施 ・コピーサービス・レファレンス ・博物館内書庫の環境整備及び災害対策実施
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の体験学習の受入れ ・館外での活動や外部団体と連携した事業の実施 ・周辺区の教育事業や団体・企業の研修への出張講義など

(3) みなとの賑わい創出事業

水辺の事業 シーカヤック教室 (4月～3月)	<p>【NPO法人横浜シーフレンズと連携した体験教室の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初級者向けコース 「半日スクール&赤レンガミニツアーリング」(123回) 「親子体験教室」親子体験教室(20回) *大学シーカヤック開催協力(神奈川大、横浜市立大予定)
カヌーポロ教室 (4月～10月)	<p>【NPO法人横浜カヌー倶楽部、横浜市カヌー協会と連携したカヌーポロ教室の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供及び大人向け教室(計14回) ・第10回帆船日本丸カヌーポロ大会(兼関東ポロリーグ神奈川大会)開催(6月予定)
帆船日本丸のライトアップとイルミネーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ライトアップとイルミネーションの実施(毎日)
パーク利用事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップやコンサートライブ配信など多彩なイベントへの貸出 ・大規模イベントへアリーナ、訓練センター、プレゼンテーションルーム及び特別展示室の一体的貸出 ・キッチンカーや飲食を主たる目的としたイベントなどの利用促進 ・アリーナや新設のプレゼンテーションルームなどでの国際会議のユニークベニューやレセプションを想定した利用を誘致 ・横浜市のプロモーション事業やみなとみらい21地区のイベント等との連携
ミュージアム・ショップ事業	<ul style="list-style-type: none"> ・施設開館日に開店し、思い出となる様々な商品を販売 ・オンラインショップで商品を販売

(4) 緑地管理及び研修施設事業

<p>緑地の維持管理・活用</p>	<p>【安全管理・美化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーク内の巡回、警備、施設の点検(毎日) ・定期的な樹木の剪定、芝生の刈込(適宜) ・パーク内一円の清掃作業(毎日) ・1号ドックやシーカヤックパーク内水域の清掃(毎日) ・プランターやボックス花壇への花の植替え(4回/年程度) ・花壇造りなどグリーンボランティアとの協働作業(2回/月) ・みなとみらい21地区まちかど花壇への協賛 ・桜木町駅前美化清掃活動への参加(毎月) <p>【撮影】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮影時間や会議室の貸出など利用者ニーズに沿った柔軟な対応 ・利用促進のため、撮影候補地の場所を Web サイトやSNSで情報発信。
<p>緑地の貸出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用日の6か月前からの予約受付サービスを継続 ・北回廊上部の貸出
<p>研修施設(訓練センター)等の管理運営(貸会議室)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・駅から近い、リーズナブル、使いやすいなどの強みを活かした利用促進 ・利用日の6か月前からの予約受付サービス及び Web サイトによる予約受付の継続と、プレゼンテーションルームの予約サービスを Web サイトに追加 ・プロジェクターなど設備機器類の計画的な更新 ・プレゼンテーションルーム、特別展示室の貸出 ・プレゼンテーションルームでのイベント等への貸出

(5) 集客増に向けた重点取組

<p>マーケット別取組(通年)</p> <p>－ 団体需要創出</p>	<p>【法人マーケット(B2B・B2B2C)への取組】</p> <p>1 教育旅行マーケットへの取組(拡大・通年)</p> <p>(1) 認知度向上、誘客促進</p> <p>ア 日修協発行の学校・旅行会社・自治体等向け『月刊教育旅行』へ教育旅行団体誘致のための施設紹介及び教育プログラム(みなとの学校 In Yokohama)掲載(継続・毎月)</p> <p>イ JTBを主とした旅行会社の教育旅行部門への営業及び教育プログラムの販売連携(継続・通年)</p> <p>ウ ヨコハマSDGsデザインセンター及びJTB横浜支店との新規プログラム共同開発と連携販売(新規・上期)</p> <p>エ 教育旅行プログラムを集約した営業ツール制作(新規・上期)</p> <p>2 企業・団体等法人マーケットへの取組(拡大・通年)</p> <p>(1) リーダーシップ体験プログラム(人財育成研修プログラム)の取組(新規・通年)</p> <p>JCD及びJTBとの連携による販売</p>
-------------------------------------	--

	<p>(2) JTB団体用企画商品「JTBならではの」への参画 同企画商品のためのコンテンツ開発及び参画後のJTBへの営業(継続・通年) ※「JTBならではの」とは、JTBのみで団体用に販売できるコンテンツ・プログラムを展開し、全国のJTB及びJTB提携販売店の法人営業担当者が販売。</p> <p>(3) 旅行会社の団体用企画商品用コンテンツ提供によるプログラム商品化と各社商品造成への積極的な参画(継続・通年)</p> <p>3 MICEマーケットへの取組(拡大・通年)</p> <p>(1) アフターコンベンション、ユニークベニューでの施設利用メニューのブラッシュアップ及びエクスカージョン造成への取組(JCD・近隣施設・旅行会社等と連携)(新規・通年)</p> <p>(2) 利用促進に向けた情報発信・営業展開</p> <p>ア 横浜市関係部局、パシフィコ横浜、YCVBへの情報提供及び販売連携の検討</p> <p>イ 会議主催者・PCO・旅行会社・その他MICEエージェント、法人等へのアプローチ</p> <p>ウ Webによる広報強化</p> <p>エ MICE業界への効果的PRの検討</p>
<p>－ 個人・グループ 需要創出</p>	<p>【個人マーケット(B2C・B2B2C)への取組】</p> <p>1 オンライン販売チャンネルへの取組(継続・拡大)</p> <p>(1)E-ticket 取扱い各社との連携強化による販売拡大</p> <p>(2)ぐるっとパス電子化による販売継続 ※令和4年度(2022年度)より電子化による販売開始</p> <p>2 オフライン(リアル)販売チャンネルへの取組(継続・一部新規・拡大)</p> <p>(1)地域連携による賑わい創出への取組</p> <p>ア YMMアート&ミュージアム構想への参画(新規・上期)</p> <p>(ア)マップ制作</p> <p>(イ)参画施設共通利用ミュージアムパスの導入等参画施設との協業による地域誘客策の実施</p> <p>イ 近隣施設・ホテルとの回遊性向上のためのチケットプラン・プログラム造成の検討及び販売トライアルの実施</p> <p>(2) 旅行会社の個人グループ用募集型企画旅行商品用コンテンツ提供によるプログラム商品化と各社商品造成への積極的な参画(拡大) (旅行会社の販売チャンネルを利用)</p> <p>3 外国人マーケット(B2B2C)への取組 ※新型コロナウイルス感染症の収束状況により、実施時期等検討</p> <p>(1) YCVBとの連携による外国人誘客に向けた情報収集と情報提供</p> <p>(2) QRコードカードを利用した多言語化対応再開(リニューアル情報反映)</p> <p>(3) 外国人(在日含む)向けキャンペーン等プロモーション策の実施(時期検討、上期)</p> <p>(4) クルーズ船利用客の誘客に向けた取組(時期検討) (一部日本人誘客含む)</p>

	<p>4 新規マーケット(B2C・B2B2C)への取組(新規)、ロケツーリズムへの取組 プログラム造成・PR・販売上での対映画会社等の許諾、ターゲット、時期等の課題整理及び具現化に向けた体制構築</p>
<p>広報宣伝・プロモーションへの取組 (通年)</p>	<p>1 メディアへの取組 新聞社、TV・ラジオ局等(無料媒体)への効果的情報発信及び掲載率UPためのコンテンツ提供</p> <p>2 Web サイトとSNSへの取組 (1) Web サイトとSNSによる情報発信の拡充 (2) 多様なマーケットに合わせた効果的な掲載コンテンツの製作 (3) 他の業種・業態の企業・団体等とのタイアップによる誘客推進 (4) 誘客・販売ツール機能構築による誘客・販売促進 (5) シーカヤック・撮影・緑地利用の事業領域拡大に向けた効果的な掲載コンテンツの製作 (6) 取組強化に向けた体制作りの検討</p> <p>3 ガイドブック・専門誌及び地域誌への取組 「るるぶ」「まっふる」を始めとする旅行雑誌等(無料媒体)への効果的な情報提供の実施</p> <p>4 地域関係機関・近隣施設との連携による広報宣伝・プロモーションの実施</p>

(6) 組織運営の質的向上に向けた取組

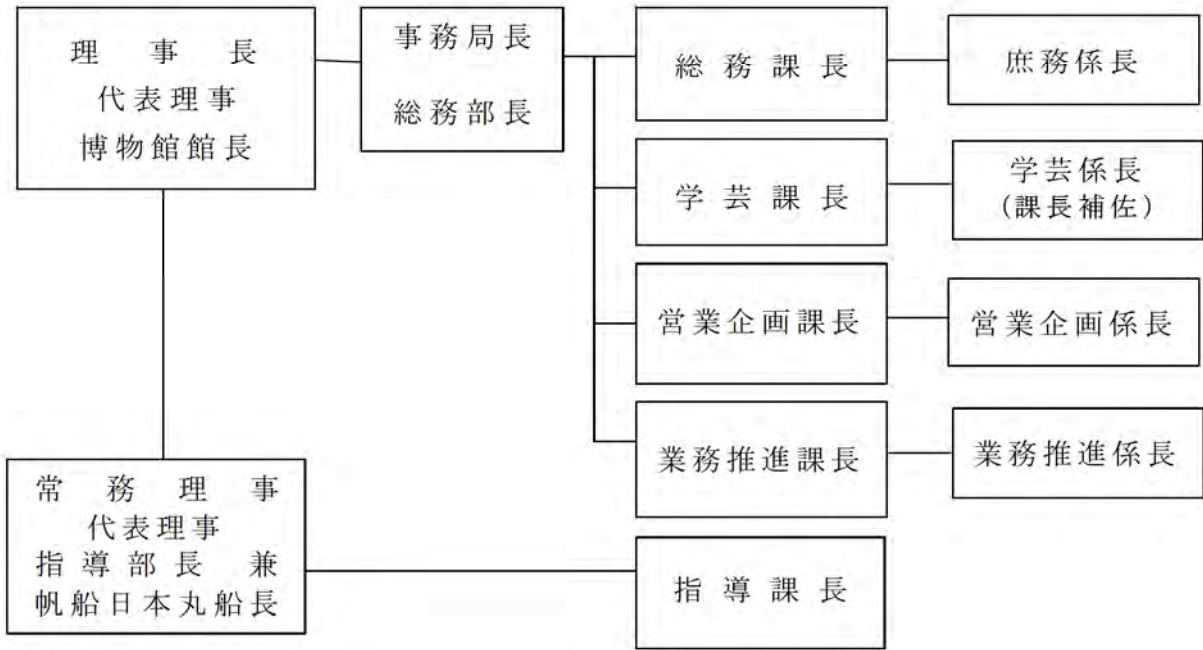
<p>風通しの良い職場づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職業務調整会議及び職員ミーティングを毎週木曜日に開催 ・安全衛生委員会を3か月毎に開催
<p>研修の実施及び参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員及び臨時職員向けに研修を実施 ・防災訓練9月～10月、文化財防火デー訓練1月、みなとみらい21地区合同防災訓練を2月～3月に実施 ・コンプライアンス、個人情報保護等の全職員研修を2月～3月に実施 ・横浜市港湾局等が主催する研修会への参加
<p>コンプライアンスの順守</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や朝礼等により意識の向上を図るとともに、コンプライアンス委員会を1月頃開催

9 管理執行体制

(1) 職員配置体制表

指定管理者の業務となる「日本丸メモリアルパーク施設」（以下「施設」という。）の管理運営については、次の職員配置体制で業務を執行します。

ア 組織図



イ 職員配置

業務内容	所 管		分 担 業 務	所 属 員	備 考
総務管理業務	総務課	庶務係	庶務、経理、人事・労務、給与、理事会等、市調整、売店	3名	アルバイト5名配置経理、売店運営
横浜みなと博物館管理運営業務	学芸課	学芸係	常設展示・特別展示、教育普及、調査・研究・収集・保存・出版活動事業、ライブラリー事業	3名	アルバイト6名配置ライブラリー、操船シミュレーター運営
営業業務	営業企画課	営業企画係	広報宣伝の企画実施、Webによる誘客、集客企画、学校・旅行者営業、地域連携・イベント等	2名	アルバイト1名配置営業、イベント企画、広報
施設管理業務	業務推進課	業務推進係	入場料徴収、Web管理、情報システム維持管理、緑地、施設維持管理、業務委託、訓練センター運営	6名	アルバイト13名配置受付業務、券売所シーカヤック教室、訓練センター貸出
帆船日本丸管理運営業務	指導課	—	保存、公開、青少年錬成、教育普及事業	10名	アルバイト2名配置業務全般補助、機関等整備
合 計 (役員・兼務を含まず)				24名	

(2) 責任体制

指定管理業務については、次の責任体制で効率的な業務執行を図ります。

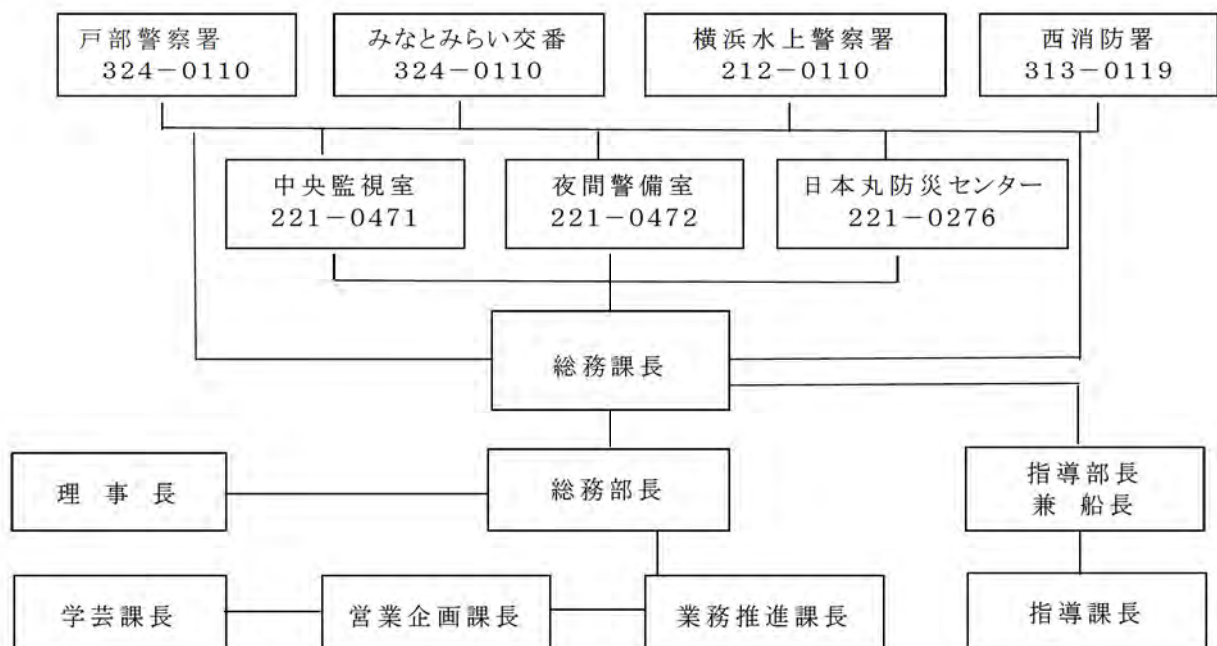
課名	業務責任者	指定管理業務
総務課	総務課長	庶務、経理（契約入札含む）、人事、給与、売店等運営
学芸課	学芸課長	横浜みなと博物館事業 常設展示事業、特別展示事業、教育普及事業、調査・研究・収集・出版活動事業、ライブラリー（資料閲覧室）事業
営業企画課	営業企画課長	広報宣伝集客誘致の企画実施、Webによる誘客、集客企画、学校・旅行業者営業、地域連携・イベント等
業務推進課	業務推進課長	入場料徴収、Web管理、情報システム維持管理、緑地、施設維持管理、業務委託、訓練センター運営
指導課	指導課長	帆船日本丸事業 保存事業、公開事業、青少年錬成事業、教育普及事業

(3) 防犯・防災対策

施設利用者の安全及び財産保全を第一に、昼夜防犯・防災及び事故防止に努め、不測を実施します。

防犯・防災・事故防止等の対策として、職員による巡視・点検に加え昼夜委託警備体制での施設の巡回や定位置警備を行うことなど利用者の安全を確保します。施設内では火気・施錠等の管理徹底を図り、退所時は「防火等管理簿」の各項目の確認処理を行うなど、確実な取組を進め、日本丸メモリアルパークの良好な管理運営に向けた職員配置を行うなど積極的に取り組んでいきます。

(4) 緊急連絡体制表



10 指定管理業務計画

(1) 年間事業計画表

管理運営に関する基本協定書に基づき、確実に業務を執行するとともに、管理職務調整会議を定例的に開催し、その内容(決定事項等の詳細)を職員に徹底するとともに、広く情報を公開し、年間目標を達成するため着実に業務を遂行します。

事業名		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 帆船日本丸事業													
保存事業		←											→
公開事業	公開 (月曜日等休館)	←									↔	↔	↔
	総帆展帆(計14回)	1	2	1	2	1	2	3	2	0	0	0	0
	満船飾(計16回)	1	3	1	1	1	3	1	2	0	2	0	1
青少年錬成事業(海洋教室の実施)		←									→		↔
教育普及事業		←									→		↔
2 横浜みなと博物館事業													
常設展示事業		←										→	↔
特別展示事業		←					←	→				→	↔
教育普及事業		←											→
調査・研究・収集・出版活動事業		←											→
ライブラリー(資料閲覧室)事業		←										→	↔
3 日本丸メモリアルパーク事業													
緑地等の維持管理・活用		←											→
訓練センター(研修施設)の管理運営		←											→
4 その他													
集客・プロモーション事業		←											→
自主事業		←											→

(2) 運營業務に関する計画表

施設名	開館時間	休館日
緑地	終日(24時間)	—
帆船日本丸	午前10時～午後5時	月曜日(祝日にあたる時は翌日休館) 12月29日～1月3日 船体整備期間(1月29日～2月26日予定)
横浜みなと博物館	午前10時～午後5時	月曜日(祝日にあたる時は翌日休館) 12月29日～1月3日 燻蒸実施期間(1月29日～2月2日予定)
訓練センター	午前9時～午後10時	12月29日～1月3日

(3) 管理業務に関する計画表

種 別	箇 所 ・ 業 務 名	内 容	回 数 等
有資格者の配置	帆船日本丸	船長及び一等航海士	通年
	横浜みなと博物館	学芸員、司書、電気主任技術者	
		サービス介助士	
安全管理	日本丸メモリアルパーク（緑地）	警備員による通常警備（監視業務・巡回警備等）、特別警備（左記のうち必要な箇所）、交通誘導（日本丸メモリアルパークの緑地） 防災訓練の実施 職員による巡回点検	通年・随時 防災訓練は、年2回（9月・1月）
	帆船日本丸		
	横浜みなと博物館		
	訓練センター（研修施設）		
	タワー棟		
	屋外トイレ		
設備維持管理	中央監視設備	有資格業者による管理委託 日常巡視点検 定期点検整備 法定点検整備	電気・機械設備等保守点検月1回及び年1回 消防・特別高圧変電設備等法定検査年1回
	電気設備		
	空気調和設備		
	給排水衛生設備		
	昇降機設備		
	消防関係設備		
帆船日本丸 船体整備・検査		横浜市からの要請による関係官公庁等と連絡対応、検査・整備の実施	年1回
小破修繕	建築物等、帆船日本丸、緑地 電気機械設備等	指定管理施設等の修繕が困難な場合は横浜市と協議	
設備関係の測定及び記録	運転・作業日誌、日常巡視点検記録、定期点検・測定記録、業務連絡簿は3年間保存 事故障害記録、補修・改良工事記録は5年間保存 設備機器・工具計測台帳、設備図書は永年保存		
清掃	日本丸メモリアルパーク全体		
植栽管理	日本丸メモリアルパーク（緑地）		

(4) 提案事業に関する計画表

事業名	内容	実施回数
帆船日本丸 親子展帆	帆船を身近に感じていただくため、親子対象の参加型小規模展帆を実施。	3回
ホリデー教室	リピーター拡大策として、ファミリーを対象にしたペーパークラフト教室及び船の折り紙教室を実施。教育活動ボランティアによる事業の一つ。	50回程度
シーカヤック教室 カヌーポロ教室	水域の利活用による賑わいづくりを目指し、NPO法人や横浜市カヌー協会と連携し教室を開催	157回
ミュージアム ショップ	帆船日本丸、横浜みなと博物館、柳原良平アートミュージアムに関連したお土産や記念品の販売	開館時

(5) 外部委託予定表

原則として次の業務を指名競争入札により委託します。

種別	名称	発注時期
設備運転業務	電灯・動力、受電、自家発電、直流電源、通信・情報、外灯、防犯、配電、消防設備	令和5年4月契約
清掃業務	日本丸メモリアルパーク(緑地・屋外トイレ)、帆船日本丸、横浜みなと博物館、訓練センター、タワー棟	令和5年4月契約
警備業務	日本丸メモリアルパーク(緑地)、帆船日本丸、横浜みなと博物館、訓練センター、タワー棟、屋外トイレ	令和5年4月契約

(6) 要望対応方針・事務フロー

お客様からの要望は、直接的な要望とアンケート調査等による要望があります。

ア 窓口等の直接的な要望

担当者が即時対応し、完了後、所属課長より総務課長及び役員に報告します。

イ アンケート調査等の要望

毎日の施設利用者としての「利用者アンケート」の意見や要望内容を集約し、毎日の朝礼や月次決算会議で確認し、通常業務へ反映させ、具体的に実施します。

帆船日本丸及び横浜みなと博物館の全体的なアンケート調査を年1回実施し、月次決算会議、管理職調整会議や職員ミーティングなどで内容を分析し、必要な事項は今後の業務へ反映し具体化します。

また、必要に応じて横浜市の関係機関と協議を行います。

(7) 研修計画表

研 修 項 目	研 修 内 容	実施回数・時期
マナー研修	窓口・電話応対等接遇	年1回・2月
個人情報保護研修	重要性と管理及び利用方法	年1回・2月
人権啓発研修	人権意識の醸成・事例研究	年1回・2月
防災訓練	情報伝達・避難誘導・消火訓練等	年2回・9月・1月
ボランティア研修	展示関係研修・教育関係研修	年6回・4月・10月・2月
コンプライアンス研修	随時案件処理研修	年1回・3月

11 指定管理業務に係る当該年度の収支計画表

(1) 収入

(単位:千円)

科 目	予 算 額	備 考
指定管理料	306,844	
利用料金収入	104,602	観覧料収入、海洋教室等収入、その他事業収入
自主事業収入	19,250	提案事業収入
売店事業収入	14,000	
その他の収入	11,000	助成・協賛金収入、寄付金収入、基本財産運用収入等
収 入 合 計	455,696	

(2) 支出

(単位:千円)

科 目	予 算 額	備 考
指定管理施設 運営事業費支出	377,652	帆船日本丸事業費支出、横浜みなと博物館事業費支出、緑地事業費支出
指定管理者 管理費支出	50,755	指定管理者施設管理費支出
自主事業費支出	10,941	提案事業費支出
売店事業支出	13,599	
支 出 合 計	452,947	

当期収支差額	2,749	
--------	-------	--

12 年間の指定管理業務の範囲外の収支計画表

(1) 収入

(単位:千円)

科 目	予 算 額	備 考
特定資産運用収入	2,000	
雑収入	0	
特定資産取崩収入	0	
収入合計	2,000	

(2) 支出

(単位:千円)

科 目	予算額	備 考
財団管理費支出	5,374	
支出合計	5,374	

当期収支差額	△3,374	
--------	--------	--